

平成 26 年 7 月 31 日

静岡経済研究所

NEWS RELEASE

一般財団法人静岡経済研究所
理事長 鈴木一雄
静岡市葵区追手町 1-13
TEL054-250-8750

平成 26 年 7～9 月期

静岡県内主要産業の四半期見通し

～『やや上昇』が 1 業種、『横ばい』が 19 業種～

現在（平成 26 年 4～6 月期）の業況

平成 26 年 6 月実施の静岡県内主要産業（20 業種）の四半期見通し調査では、現在（4～6 月期）の業況は、『順調』が 1 業種、『普通』が 5 業種、『低調』が 13 業種、『不調』が 1 業種となり、消費税引上げにともなう駆け込み需要の反動減で、前回（1～3 月期）調査より大幅に悪化した。

平成 26 年 7～9 月期の見通し

平成 26 年 7～9 月期の見通しは、消費税引き上げの反動の影響が終息に向かいつつあり、景気は底を打つとみられるが、デフレ脱却を確実なものとして本格的な回復軌道に乗せるためには、夏期の個人消費の盛り上がり期待したい。

担当：出版担当 望月 毅

駆け込み需要の反動減が終息し、景気は底打ちへ

(1) 業界景気の現況について

県内主要産業20業種の現在（平成26年4～6月期）の業況は、『順調』が1業種、『普通』が5業種、『低調』が13業種、『不調』が1業種となった。

前回（平成26年3月）調査との比較では、消費税引上げ前の駆け込み需要の反動が表れたため、「自動車販売」が『好調』から『低調』に3ランク、「自動車部品」、「大型小売店」、「家電量販店」が『順調』から『低調』に2ランク下降した。さらに、「民生用電器部品」、「住宅」が『順調』から『普通』に、「食品・飲料」、「産業用紙」、「食品スーパー」が『普通』から『低調』に、それぞれ1ランク下降した。また、内外需とも大きく伸びた「工作機械」が、『普通』から『順調』に1ランク上昇した。

(2) 業界景気の見通しについて

平成26年7～9月期の業界景気見通しは、20業種中、『やや上向き』が1業種、『横ばい』が19業種となった。業種別にみると、「食品・飲料」のみ、原料価格が昨年のピーク比△1割ほど低下して収益改善が見込まれるため、『低調』から『やや上昇』の見通し。

『横ばい』の19業種は、「工作機械」が補助金がらみの発注の本格化により『好調』のまま『横ばい』。「家庭紙」は駆け込み需要の反動減の終息から、「民生用電器部品」はエアコンの需要期入りにより、「建設」と「住宅」は契約件数の下げ止まりから、「情報サービス」は首都圏からの受託の増加により、それぞれ『普通』のまま『横ばい』の見通し。

『低調』のまま『横ばい』は12業種で、「製茶」は需要が回復せず価格も伸び悩むため、「産業用紙」は消費税引き上げ後の飲料や家電などユーザー業界の販売不調から、「自動車部品」や「自動車販売」は駆け込み需要の受注残の解消から、「大型小売店」や「家電量販店」は高額品で反動の影響が残るため、「食品スーパー」は消費者の節約志向が強まり客単価が伸びないため、「運輸・倉庫」は燃料価格高騰による採算面の厳しさから、「外食」は消費増税による客足の鈍さから、「観光・レジャー」は富士山の世界遺産登録効果の一巡から、「リース」は大型案件が依然として増えないため、「人材派遣」は輸送機械系のユーザー企業の人材需要が芳しくないため、などが理由となっている。また「二輪車部品」は、海外部品との競合がさらに強まるとみられるため、『不調』のまま『横ばい』の見込み。

なお、半期調査業種では、「家具」は海外製品との競争による中級品の苦戦から『低調』のまま、「楽器」は新商品の下支えにより『普通』のまま『横ばい』の見通し。



4～6月期は、消費増税に伴う駆け込み需要の反動減により、「工作機械」以外の業種は総じて苦戦したが、7～9月期はその影響も終息し、景気は底を打つとみられる。しかし、多くの業種で景気『横ばい』を見通す小康状態にあり、消費税の再引き上げを前に、デフレ脱却を確実なものとして本格的な回復軌道に乗せていくためには、夏期の個人消費の盛り上がり期待したい。

静岡県内産業の四半期ごとの業界景気の『現況』と『見通し』推移

年 次		平成23年		平成24年				平成25年				平成26年	
四 半 期		Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ (今回調査)
対象月(○は調査月)		7～⑨	10～⑫	1～③	4～⑥	7～⑨	10～⑫	1～③	4～⑥	7～⑨	10～⑫	1～③	4～⑥
業界景気の『現況』	好調 ☀	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
	順調 ○	1	1	1	1	0	0	0	1	2	4	5	1
	普通 ◐	3	3	4	4	4	3	2	1	3	6	7	5
	低調 ☁	11	12	10	11	12	15	16	17	14	9	6	13
	不調 ☄	5	4	5	4	4	2	2	1	1	1	1	1
	全業種の平均階級値	2.00	2.05	2.05	2.10	2.00	2.05	2.00	2.10	2.30	2.65	2.95	2.30
	好調：5												
	順調：4												
	普通：3												
	低調：2												
不調：1													
業界景気の『見通し』	上昇 ↗	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
	やや上昇 ↗	3	1	2	0	0	1	1	2	2	5	0	1
	横ばい →	17	18	16	17	16	19	18	17	17	15	12	19
	やや下降 ↘	0	0	2	3	4	0	1	1	0	0	4	0
	下降 ↘	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0

注1) 「業界景気の現況」および「業界景気の見通し」は、対象企業経営者が業界景気動向をどうみているかを調査したものの調査は、毎年3、6、9、12月に実施。「業界景気の現況」とは、調査時点(6月調査であれば4～6月期)における業況、「業界景気の見通し」とは、調査時点における翌期(6月調査であれば7～9月期)の見通しを示す。

注2) 調査方法は、アンケート調査とヒアリング調査による。アンケート調査の概要は、以下の通り。
 調査時点…平成26年6月初旬
 回答企業…県内主要20業種(137社)

注3) 平均階級値は、好調：5、順調：4、普通：3、低調：2、不調：1とする、半期調査業種を除く20業種の平均値。

平成26年7～9月期 静岡県内主要産業四半期見通し調査一覧表

調査項目 業種	業界景気の現況	業界景気の見通し	静岡県内主要産業の見通し										
			生産量 (前4ヶ月期 対比伸び率)	売上高 (前4ヶ月期 対比伸び率)	生産量 (前年同期比 伸び率)	売上高 (前年同期比 伸び率)	操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格の動向 (前4～6月期対比)	製品価格の動向 (前4～6月期対比)	資金繰り	受注残 (ヵ月)
製茶	☁	→	—	—	—	→	○	供給超過	過多	—	—	普通	—
食品・飲料	☁	↗	↗	↗	→	→	○	均衡	適正	→	→	普通	0.5～1.0
家庭紙	☾	→	→	→	→	→	○	均衡	適正	→	→	普通	0.1～1.0
産業用紙	☁	→	→	→	→	→	○	均衡	適正	→	→	普通	0.1～1.0
工作機械	○	→	→	↗	↗	↗	○	均衡	適正	→	→	普通	2.0～6.5
民生用電器部品	☾	→	↗	↗	↘	↘	○	均衡	適正	→	→	普通	0.3～3.0
自動車部品	☁	→	→	→	↘	↘	○	均衡	適正	→	→	普通	0.1～1.5
二輪車部品	////	→	↘	↘	→	→	◇	均衡	適正	↗	→	普通	1.0～3.0
建設	☾	→	—	↗	—	↗	◎	均衡	適正	↗	→	普通	3.0～9.0
住宅	☾	→	—	↗	—	↘	◎	均衡	適正	→	→	普通	1.0～6.0
大型小売店	☁	→	—	↗	—	↘	—	供給超過	過多	→	→	普通	—
食品スーパー	☁	→	—	↗	—	↘	—	均衡	適正	→	→	普通	—
自動車販売	☁	→	—	→	—	↘	—	均衡	適正	→	→	普通	—
家電量販店	☁	→	—	→	—	↘	—	均衡	適正	→	→	普通	—
運輸・倉庫	☁	→	—	→	—	→	○	均衡	—	↗	→	普通	—
情報サービス	☾	→	—	→	—	→	◎	需要超過	—	↗	→	普通	—
外食	☁	→	—	→	—	→	—	均衡	—	↗	→	普通	—
観光・レジャー	☁	→	—	↗	—	→	—	供給超過	—	→	→	普通	—
リース	☁	→	—	↗	—	↗	—	—	—	—	→	普通	—
人材派遣	☁	→	—	→	—	→	○	均衡	—	→	→	普通	—
〈特別調査 平成26年7～12月期 半期見通し〉													
家具	☁	→	→	→	→	→	◇	供給超過	適正	→	→	普通	0.5～1.0
楽器	☾	→	↗	↗	→	→	○	均衡	適正	→	→	普通	—

表の見方と注意

業界景気の現況	業界景気の見通し	生産量・売上高の伸び率 原材料・製品価格の動向	操業度	需給バランス	製品在庫水準	資金繰り
好調 ☀	上昇 ↗	非常に増加・上昇 (+10%以上) ↗	100～90% ◎	非常に需要超過	非常に過少	非常に余裕
順調 ○	やや上昇 ↗	増加・上昇 (+3～+9%) ↗	89～80% ○	需要超過	過少	余裕
普通 ☾	横ばい →	横ばい → (+2～△2%) →	79～70% ◇	均衡	適正	普通
低調 ☁	やや下降 ↘	減少・下降 (△3～△9%) ↘	69～60% ◎	供給超過	過多	逼迫
不調 ////	下降 ↘	非常に減少・下降 (△10%以下) ↘	59%以下 ●	非常に供給超過	非常に過多	非常に逼迫

(注) 特別調査(家具、楽器)は半期ベース(1～6月期の現状と7～12月期の見通し、前期比・前年比もすべて半期ベース)。
半期調査対象企業…2業種の企業5社。

主要業種の現況と7～9月期の景況見通し

業種	業界天気	苦境が続く中、冷茶を中心とした夏季需要に期待
製 茶	●●	(現況)・製茶問屋の売上は、不振だった前年と同程度にとどまった模様。一番茶は、空前の大減産となった前年実績こそ+1割程度上回ったものの、平年比では減産になり、取引価格は前年比▲1割程度となった。
	→ ●●●	(見通し)・7～9月の製茶問屋の売上は、引き続き厳しい状況が続く見込み。風評被害による仏事を中心としたギフト離れの影響が大きく、需要回復への足取りは重い。問屋・小売店とも在庫がだぶつき気味となっている中、冷茶を中心とした夏季需要の増伸に期待。

業種	業界天気	駆け込み需要の反動減が解消し、前年水準を確保
食 品 ・ 飲 料	●●	(現況)・4～6月の食料缶生産量は、主力のツナ缶などで消費税率引上げの反動減があり、前年を▲10%程度下回った模様。一方、飲料缶類では、気温の高い日が続いたことから、前年を+5%程度上回ったとみられる。
	→ ●	(見通し)・7～9月の食料缶生産量は、駆け込み需要の反動減が解消し、前年水準を確保できる見通し。ツナ缶の原料価格は昨年ピーク時より▲1割ほど低くなるとみられ、収益面で改善が進みそう。飲料缶は、極端な冷夏とならなければ前年水準を確保できるとみられる。

業種	業界天気	反動減はほぼ終息し、トイレ紙価格は安定へ
家 庭 紙	●	(現況)・前期末時点での品薄を解消するため、GW頃まで増産が継続され、4～6月の家庭紙の生産量は前年を上回った。一方、小売店での販売量は前年をやや下回ったが、落込みは小幅にとどまり、値上げも定着した。
	→ ●	(見通し)・7～9月の家庭紙生産量は、前年並みとなる見通し。消費増税に伴う駆け込み需要の反動減はほぼ終息したとみられ、大きな変動はなさそう。価格面では、輸入品との競合を考慮するとさらなる上昇は考えにくく、当面は現状程度で推移しそう。

業種	業界天気	段ボール原紙は、飲料や家電向けの需要への対応がカギ
産 業 用 紙	●●	(現況)・産業用紙の生産量は、前年をやや下回った。段ボール原紙は、加工食品や通販向けは堅調だったが、駆け込み需要の反動減で青果物向けなどが低迷し、前年割れ。白板紙は、マニラボールの落込みを白ボールが補い、横ばい程度で推移した。
	→ ●●●	(見通し)・7～9月の産業用紙の生産量は、前年をやや下回る見通し。段ボール原紙では、駆け込み需要の反動減は解消に向かう見込み。飲料や家電向けなどで需要を予測しにくい中、状況に臨機応変に対応できるかがカギとなりそう。白板紙は、前年並みの生産を確保できるとみられる。

○好調 ○順調 ●普通 ●●低調 // 不調 業界天気は上段が4～6月期、下段が7～9月期

業種	業界天気	内外需とも好調を維持、前年実績を大きく上回る見通し
工作機械	○ → ○	(現況)・全国および県内の受注額は、前年実績を+30%程度上回って推移した。外需では、中国を含めたアジア向けが好調で、内需も、企業の設備投資が本格化し前年を上回った。消費増税の反動減の影響はみられなかった。 (見通し)・全国および県内の受注額は、4～6月期に続き、ともに前年実績を+30%程度上回る見通し。内需は、前年水準が低いことに加え、ものづくり補助金を活用した発注が本格化し、外需についても、中国市場の回復が鮮明になっており、回復基調は続く見通し。

業種	業界天気	消費増税後の反動減で、前年をやや割り込む見通し
民生用電器部品	● → ●	(現況)・家庭用エアコンの出荷台数は、4月こそ消費増税前に積み上がった受注残への対応で前年を上回ったが、5月以降は反動減に見舞われ、全体で前年を▲1割前後下回った。冷蔵庫も、増税後の反動減で、前年実績をやや下回った。 (見通し)・家庭用エアコンの出荷台数は、夏場の天候に左右されるものの、猛暑で過去最高水準に達した前年実績を確保するには至らない見通し。冷蔵庫の出荷台数も、消費増税前の需要先食いの影響で、前年をやや下回る見込み。これに伴い、部品メーカーの受注量は前年を下回って推移するとみられる。

業種	業界天気	駆け込み需要の反動減と輸出減で、生産量は前年をやや下回る
自動車部品	●● → ●●	(現況)・国内の自動車生産台数は、消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動減に加え、輸出も伸び悩んだことから、前年をわずかに下回った模様。これに伴い、部品メーカーの出荷高も、前年を下回って推移した。 (見通し)・国内の自動車生産台数は、前年をやや下回って推移する見通し。内需は、駆け込み需要の反動減が続き、外需も、完成車メーカーの海外現地生産化の進展で、輸出の増加は期待できない状況。部品メーカーの受注量も、前年を下回って推移することが予想される。

業種	業界天気	海外部品との競争で、県内部品生産量は伸びを欠く
二輪車部品	//// → ////	(現況)・4～6月の全国完成車生産台数は、前年実績を+5%ほど上回ったとみられる。国内市場では駆け込み需要の反動減もみられたが、先進国向けの輸出がけん引。県内部品メーカーの生産量は海外部品に押されたが、前年実績を確保した模様。 (見通し)・7～9月の全国完成車生産台数は、前年をやや上回って推移する見通し。駆け込み需要の反動減は解消され、新モデルの投入効果により国内・海外市場とも底堅く推移するとみられる。しかし、海外部品との競争が強まるため、部品メーカーの県内生産は前年水準にとどまる見通し。

○ 好調 ○ 順調 ● 普通 ●● 低調 //// 不調 業界天気は上段が4～6月期、下段が7～9月期




業種	業界天気	公共は前倒し発注で増加見込み、民間は先送り案件が顕在化
建設	●	(現況)・公共工事契約額は、前年を▲2割程度下回った模様。前年の大型補正の反動減による国や県関連の大きな落込みが響いた。民間の工事費予定額は、病院や高齢者施設など医療・介護関連の受注が堅調に推移し、前年を上回ったとみられる。
	→	(見通し)・公共工事契約額は、前年を+1割程度上回る見通し。国や県では予算の早期執行を求めており、8月中旬までに発注が集中するとみられる。民間の工事費予定額は、原材料費や人件費の先高観で、これまで先送りされていた商業施設などの新設案件が顕在化し、前年を上回る見通し。




業種	業界天気	持家は契約件数に下げ止まりの傾向
住宅	●	(現況)・新設住宅着工戸数は、前年を▲1割程度下回った模様。持家は、昨年9月末に駆け込みで契約した案件の着工が一段落し、貸家も消費増税の影響を受けて減少した模様。一方、分譲は地場の建売業者による物件の仕込みがみられた。
	→	(見通し)・新設住宅着工戸数は、前年を下回る見通し。消費増税後も住宅展示場の来場者数は落ち込んでおらず、契約件数も下げ止まりの傾向がみられることから、持家は前年並みの水準で推移することが期待されるが、貸家や分譲は消費増税前に需要を先食いしており、その余波が続きそう。




業種	業界天気	衣料品などで駆け込み需要の反動減が続く
大型小売店	●●	(現況)・県内大型小売店の既存店売上高は、前年を▲1割程度下回った模様。百貨店は、時計・宝飾品といった高額品や化粧品が駆け込み需要の反動で落ち込み、全体を押し下げた。総合スーパーも衣料品が振るわず、前年を下回ったとみられる。
	→	(見通し)・県内大型小売店の既存店売上高は、前年を▲5%程度下回る見通し。百貨店は、高価格帯の商品を中心に駆け込み需要の反動減の影響が続くとみられ、前年水準への回復は8月以降になる見通し。総合スーパーは、衣料品や住関連品で増税の影響が続くとみられ、前年を下回る見込み。




業種	業界天気	消費増税により消費者の節約志向が強まる
食品スーパー	●●	(現況)・県内主要食品スーパーの既存店売上高は、前年を▲3%程度下回った模様。生鮮食品や総菜は堅調に推移したものの、消費増税前のまとめ買いが想定以上に発生し、落ち込んだ4月の売上を挽回しきれなかったとみられる。
	→	(見通し)・県内主要食品スーパーの既存店売上高は、前年をやや下回って推移する見通し。消費増税により消費者の節約志向が強まり、客単価の低下が避けられないとみられることに加えて、価格競争の激化による利益率の低下など、経営への悪影響も懸念される。

○好調 ○順調 ●普通 ●●低調 // 不調 業界天気は上段が4～6月期、下段が7～9月期

業種	業界天気	ボーナス商戦の盛り上がり期待
自動車販売	  	<p>(現況)・県内の乗用車販売台数は、前年を▲3%程度下回った。駆け込み需要の反動で新規受注は大きく減少したものの、増税前に契約していた車両の登録が進んだことで、販売台数は微減にとどまった。</p> <p>(見通し)・県内の乗用車販売台数は、前年を▲5%程度下回る見通し。軽自動車の受注は前年並みの水準まで回復しつつあるものの、登録車は増税前の受注残の下支えがなくなり苦戦が予想される。こうした中、賞与の増額などに伴う所得環境の改善が見込まれ、ボーナス商戦の盛り上がり期待がかかる。</p>

業種	業界天気	生活家電の需要減退を背景に、前年実績をやや下回る見通し
家電量販店	  	<p>(現況)・パソコンは、4月の基本ソフト「ウィンドウズXP」のサポート終了に伴う新機種への買い替え需要で前年実績を上回ったが、薄型テレビや生活家電は消費増税後の反動で前年を下回り、家電販売額全体では、前年を▲1～2割下回った。</p> <p>(見通し)・薄型テレビの販売額は、所得環境の改善傾向を背景に、4Kテレビなど高価格帯製品の伸長が見込まれる。生活家電では、調理家電など一部の人気商品の需要拡大が見込まれるものの、依然として消費増税前の需要先食いの影響が懸念され、家電販売額全体では、前年実績をやや下回る見通し。</p>

業種	業界天気	輸送量は前年確保の見込みも、燃料高騰で収益圧迫が懸念
運輸・倉庫	  	<p>(現況)・トラック輸送量は、駆け込み需要による反動減が懸念されたものの、5月以降は前年水準に徐々に戻り始め、全体では前年実績を若干下回る程度で推移した模様。同様に、普通倉庫の入出庫高も、前年水準をやや下回る程度で推移した。</p> <p>(見通し)・7～9月のトラック輸送量は、前年水準は確保するとみられる。水準が低いことに加え、生産関連では設備投資が堅調な機械関連の荷動きに期待。普通倉庫の入出庫高は、食品、電気機械などの荷動きに期待がかかり、前年水準は確保できる見通し。ただし、燃料高騰により収益面で厳しさが増す。</p>

業種	業界天気	首都圏からの受託増加を見込むも、SE不足が深刻化
情報サービス	  	<p>(現況)・全国の売上高は、システムインテグレーション業務など主力の「ソフト開発」が堅調に推移し、前年をやや上回った。県内は、製造業向けなどは小口案件に終始したが、首都圏からの受託案件が増加して、前年比微増となった。</p> <p>(見通し)・全国における売上高は、前年を上回る見通し。顧客企業の景況感回復により「受注ソフト」は前年を上回るとみられ、とくに金融向けなどが堅調に推移する見込み。県内も、引き続き首都圏からの受託案件を取り込み、前年を上回る見通し。一方で、SE(システムエンジニア)不足の深刻化が懸念される。</p>


業種	業界天気	売上高は前年並みも、材料高で採算は悪化
外食	●	(現況)・主要外食店の売上高は、前年をやや上回った模様。消費税率の引上げで来店客数はわずかに減少したが、税率引上げ前から取り組んできたメニューの高付加価値化が奏功して、客単価を上昇させることができた。
	→	(見通し)・主要外食店の売上高は、前年並みで推移する見通し。消費税率引上げによる外食意欲の落込みは限定的だが、外食頻度の減少は避けられそうにない。客単価は微増で推移するため売上高は維持できるとみられるが、材料高から採算は改善できない見通し。


業種	業界天気	富士山の世界遺産効果は一巡、圏央道効果は限定的
観光・レジャー	●	(現況)・県内主要旅館の総売上高は、前年をやや上回った模様。消費増税の影響は軽微で、旅行意欲の落込みは少なかった。「浜名湖花博2014」は129万人の来場者を集め、浜松市の宿泊は伸びたものの、中部・東部地域には広がらなかった。
	→	(見通し)・県内主要旅館の総売上高は、前年をやや下回る見通し。旅行意欲は低下しないとみられるが、富士山が世界文化遺産に登録された効果が一巡するため、減少は避けられない模様。圏央道の開通は、北関東からの流入と南関東からの流出で効果が相殺されるため、静岡県への恩恵は限定的。

業種	業界天気	設備投資の回復で、水準は低いが前年実績は若干上回る
リース	●	(現況)・県内のリース件数・契約高は、消費増税による反動減が想定したほどはなかったことに加え、企業の設備投資マインドの回復が鮮明になったことから、前年実績を確保したとみられる。ただし、小口案件の増加で、利益面では厳しさが続いた。
	→	(見通し)・リース件数・契約高ともに、前年水準が低いこともあり、前年の実績は若干上回る見通し。機械関連をはじめ設備投資が回復していることに加え、太陽光発電などの環境関連案件も一定の量が見込まれる。ただし、海外案件が多くなっており、地元案件中心の業者には厳しさが増すとみられる。

業種	業界天気	営業業務やIT系業務では人材の確保に苦戦
人材派遣	●	(現況)・4～6月の県内の実働派遣労働者数は、前年水準を若干下回った模様。製造業務では、駆け込み需要の反動減で派遣労働者が減少したものの、一部メーカーでは増税前の受注残を処理するために契約を延長するケースもあった。
	→	(見通し)・7～9月の県内の実働派遣労働者数は、前年水準で推移する見通し。営業業務やIT系業務では人材不足感が高まっており、人材の確保に苦戦するとみられる。製造業務は、電気機械系企業の夏季需要が底堅いが、輸送機器系企業では減少が予想されるなど、ばらつきが目立つ。

○好調 ○順調 ●普通 ●低調 // 不調 業界天気は上段が4～6月期、下段が7～9月期

業種	業界天気	リビング家具や寝具を中心に堅調な推移
家具 (半期ベース)		<p>(現況)・県内の木製家具総出荷額は、前年水準を若干上回った模様。1～6月期 増税前の3月には需要が大きく伸び、4月以降は反動で減少したが、通期では前年を上回ったとみられる。新設住宅着工戸数が高水準で推移しており、ソファやベッドなどが堅調。</p> <p>(見通し)・県内の木製家具総出荷額は、前年を若干上回る見通し。駆け込み需要の反動減がなくなり、新設住宅着工戸数も底堅いと予想され、リビング家具や寝具を中心に堅調な推移となる見込み。ただし、低価格の海外製品と高級品の二極化が進み、中級品は苦戦が続く。</p>

業種	業界天気	在庫水準が低く、新商品が下支えする見込み
楽器 (半期ベース)		<p>(現況)・楽器販売額は、前年を上回った模様。国内は、消費増税の駆け込み需要の反動減は少なく、主力のピアノや電子ピアノの新商品が堅調で前年を+1割ほど上回った。海外は、米国・中国向けが好調で、前年を+2割ほど上回った。</p> <p>(見通し)・楽器販売額は、前年をやや上回る見込み。国内は、夏前に主力のピアノで新商品が投入されており、在庫水準は前年より低いいため、安定した推移が予想される。海外は、欧州景気の弱さが心配だが、北米や中国向けは需要が底堅いことから前年を上回って推移する見通し。</p>

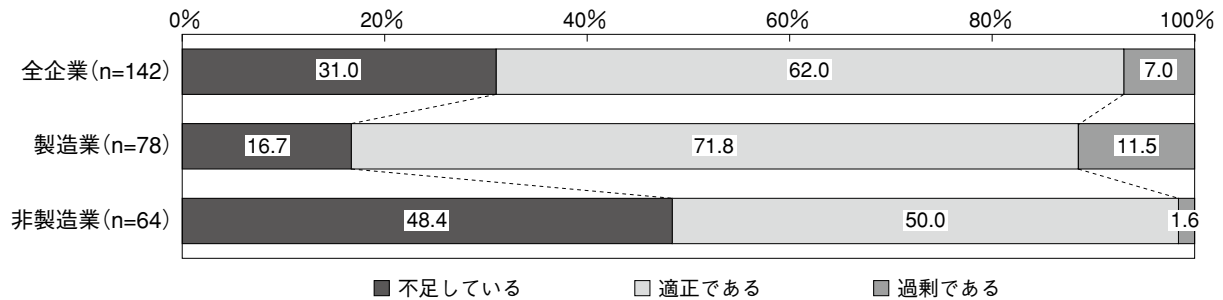
○好調 ○順調 ●普通 ●低調 // 不調 業界天気は上段が1～6月期、下段が7～12月期

非製造業で人手不足傾向が強まる

県内企業に、現在の従業員の過不足状況を聞いたところ、「不足している」と答えた企業は31.0%、「適正である」は62.0%、「過剰である」は7.0%となり、人手不足の傾向が出ている。

「不足している」企業の割合を業種別にみると、製造業が16.7%であるのに対し、非製造業では48.4%と半数近くの企業で人員不足と感じており、今後、人材確保に向けた競争が起こりそうな状況にある。非製造業の中でも、とくに運輸・通信業（66.7%）、ホテル・旅館業（60.0%）、建設業（58.3%）で不足感が強い。消費税引上げ前の駆け込み需要の反動減が終息して生産規模が持ち直しつつある製造業との競合で、賃金が上昇していく可能性がある。

図表 現在の従業員の過不足状況



調査要領：調査時点平成26年6月、調査対象企業数319社、回答社数142社、有効回答率44.5%